

## 2020年度 事業報告

### 生活介護事業・就労継続支援B型事業（ポップコーン）

#### 1、活動報告

今年度は、両事業とも「障害のある方の命と健康を守る対策を第一にとりつつ、できるだけいつもと変わらない生活を続けられるようにどう支援していったらいいのか」を日々考えながら取り組みました。

新型コロナウイルス感染症対策として、玄関にて検温や体調確認と手指消毒。日中においても手洗いや手指消毒、体調管理、3密の回避、そして人との距離の確保といった基本的な対策は、手を抜かずに日々行いました。それは今でも続けています。

活動や行事については、外部との接触が多い作業内容の変更（アルミ缶つぶしを中止し、ペットボトルをリサイクル機へ）、そして様々な外出活動（お出かけや外食等）や行事（バス事業、交流運動会、ポップコーンふれあい祭り）の中止。緊急事態宣言の発令時には、保護者様に送迎を担っていただきました。また調理実習を自粛したり仲間たちにとって本当に楽しみが激減した年でした。

しかし、感染拡大につれて様々な課題や問題がでてきました。4月、5月のコロナの猛威の時期には、感染リスクを警戒し自主的に通所を自粛する仲間たちがでました。自粛することで、報酬の問題に直面。早速、岐阜市に問い合わせたところ「普段と同様の相談支援をした場合は通所とみなす（代替サービス制度）」と確認がとれました。そこで、自粛中の生活の様子についてアンケートや電話、家庭訪問等で仲間たちとの繋がりを継続致しました。ところが、この制度も1月からの緊急事態宣言の時には、適応されず欠席時対応加算の算定となってしまいました。

基本的な感染対策を徹底していても年を明けた1月には、コロナの濃厚接触者が出はじめ、施設内に一気に緊張や不安が走りました。その都度、保健所と相談しながら進めましたが、改めて感染症の対応の難しさと感じました。そこで嘱託医（村木医師）を講師に招いて新型コロナウイルス感染症についての研修会を開催し感染症を正しく知り、正しく恐れる事を学びました。本当に早くコロナが終息することを願うばかりです。

#### 「生活介護事業」

コロナ禍で作業や活動をどのように進めたらいいのか悩みながらも、一人ひとりが主役になれる時間を大切に、安心して過ごせる環境づくりを目指して取り組みました。

作業では、外部との接触が多いアルミ缶つぶしの中止に伴い、作業の時間になにかできることはないだろうかと職員間で話し合いました。そして、みんなんで写真を撮りスマイルマスク運動に参加したり、医療従事者へ応援メッセージを作り、その写真をSNSで配信しました。又感染対策を徹底しつつペットボトルをリサイクル機への挿入やメルシーのカタログの袋入れを行いました。継続して行っている作業は、月日の経過とともに、着実に作業能力の向上がみられます。

10月からは、新たにコーヒーの豆を焙煎し販売へと新商品の開発に取り組みました。またリサイクル製品の分別（金属とプラスチック等の仕分け。例えば、CDとケース、リモコンと箱の分別）の仕事も新たに始めました。仲間たちにとって好きな飲み物（コーヒー）や、日頃から目にしていく部品等々。そして分かりやすい工程ということも重なり、より作業に集中して取り組める仲間たちが多くなってきました。表情よく仕事をする方には、1日作業をする日を作っていきたいと思います。

活動では、仲間たちの楽しみにしていることが次々に中止や自粛せざるおえない現状が続くにつれ皆残念がっていました。そこで、職員間で話し合い、仲間たちの楽しみや笑顔を取り戻すた

めにどのようにしたらよいのか考えた結果、ないもはつくることにしました。例えば、夏祭りでは、仲間たちと一緒に食べたい物や出店を考え企画。当日は、施設内に屋台を組んだり、はっぴを着たりしてポップコーン独自の夏祭りを楽しみました。終了してからも「またやりたい、次はハロインパーティー」など次への企画の声もあがりました。その後の企画は、お化け屋敷、運動会やハロインパーティー、お菓子の買い物の体験、芸術活動、クリスマス会等を感染症対策を行いながら仲間たちの笑顔や主役になれる時間を大切に捉え取り組みました。

#### 「就労継続支援 B 型事業」

今年度の就労継続支援 B 型の在籍人数は 3 名。仲間たちの通所頻度、2 名の方は、他サービスを利用しているため、週 1 回の利用。そして 1 名の方は、なかなか毎日の通所や、時間どおりに出勤や退勤することが難しく、なにより日々の生活のなかで気になる事がおおくなり、月日の経過と共に通所頻度が減っていく状態です。

仕事の内容は、従来の下請け作業（カタログの袋入れから発送まで）を行いました。しかし、仲間たちの出勤日数が少ないことから生産数も低下していきました。今後は、仲間たちの出勤日数をどのように増やしていったらよいのかが課題であると共に、入所者が増えるように学校等へ働きかけていきたいと思えます。

## 2 各事業の取り組み

#### 「生活介護事業」

重度・重複障害者を中心に生産活動や生活を通して発達を支援し、地域社会の中で生きがいを感じていけるように個々の障害に合わせた創作的活動を行った。

- (1) 個別支援計画作成
- (2) 身体等の介護
- (3) 入浴（週 2 回）
- (4) 生産活動
  - ・雑貨製品 ・製造販売（オープン陶土工芸、画鋸、クリップ、ビーズ、フェルト製品）
  - ・アルミ缶 ・ペットボトル ・飲料用パックリサイクル回収、分別
  - ・軽作業 ・自主製品（新商品の製造と販売：コーヒー）
- (5) 創作的活動
  - ・調理実習 ・リトミック、音楽活動、スヌーズレン ・工作等創作活動 ・芸術活動
- (6) 外出・・・散歩
- (7) 送迎

#### 「就労継続支援 B 型事業」

自立した日常生活または社会生活を営むことができるように、生産活動その他機会を通して、その知識及び能力の向上のために支援を行った。

身体的に重度な方には、休憩、ストレッチをとることを進めるなど体調面を留意して行った。

- (1) 個別支援計画作成
- (2) 生産活動
  - ・下請け作業（1 カ所の会社） ・物品販売
- (3) 送迎
- (4) 工賃

### 3 2020年度 年間延べ利用者数及び開所日数

生活介護事業 (定員 30名 2021年3月31日 現在 31名)

(1) 開所日数 242日

(2) 年間延べ利用者数 6,735人 (1日平均利用人数: 27.8人)

就労継続支援B型事業 (定員 10名 2021年3月31日 現在 3名)

(1) 開所日数 242日

(2) 年間延べ利用者数 223人 (1日平均利用人数: 0.9人)

### 4 年間行事

4月 年度始め式 12月 クリスマス会 2月 成人を祝う会

\*毎月地域アルミ缶回収を行った。

## 令和2年度事業報告

共同生活援助事業所（グループホーム）

ふぁみりいポップ

入居者 5名

開所日 月、火、木、金の夕方から翌朝

※祝日はお休み

※ポップコーンの開所日に合わせて変更有

### 大切にしたこと

- ・入居者の第二の自宅としてくつろげる場になるように努めました。
- ・必要に応じて保護者と密に連絡をとりあいました。
- ・地域の方との交流をもつため、自治会活動等に参加しました（職員）。

### 具体的な支援内容

- (1) 共同生活援助計画の作成
- (2) 食事・排泄・入浴等日常生活の介助
  - ・入居者の安全・安心を第一にして介助しました。
  - ・てんかん発作をもっている入居者には、発作時の転倒による怪我などの未然防止に細心の注意を払いました。
- (3) 趣味やお楽しみの時間の提供
  - ・ゆったりした時間の中でくつろげるよう、テレビやDVDやパソコンを用いました。
  - ・入居者によってソフトブロック、絵本、タブレット端末、電子ピアノなどを利用しました。
  - ・仲間の誕生日祝いや季節の行事など、イベントを2か月に1回程度企画しました。
- (4) 日常的な相談や話し相手
  - ・日常の中で話し相手になりました。
- (5) 食事の提供
  - ・健康に気を配った献立、心をこめて調理しました。
  - ・その日の献立を仲間が見やすいように掲示しました。
- (6) 健康管理・金銭管理の手助け
  - ・気候に合わせた室温、衣服、寝具を心がけました。入浴方法も気候に合わせて調整しました。
  - ・必要に応じて、内科や歯科などの受診、グループホームでの訪問診療に同行・同席しました。
  - ・服薬、与薬管理を徹底しました。
- (7) 夜間における安全確認や身体介助、排せつ介助
- (8) 緊急時の対応
- (9) 日中活動の場等との連絡・調整
  - ・仲間の状態等の情報を書類やFAXでポップコーン（日中活動施設）と毎日共有しました。
- (10) 衛生面の管理
  - ・行政からの通知を参考にしながら、新型コロナウイルスの感染対策を行いました。
  - ・助成金を活用し、新たに空気清浄機、加湿器などを導入しました。

## 一日の流れ

<span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">夕方</span> 16時	帰所・入浴	<span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">翌朝</span> 6時 15分	起床
18時 15分	夕食	7時	朝食
19時	自由	8時	出発準備
21時 30分	リビング消灯	9時 15分	出発
23時	個室消灯		

## 年間の記録

### 2020年

- 4月 お花見
- 地域 排水路の清掃参加（職員）
- 5周年記念イベント→中止
- 7月 誕生日会
- 8月 地域 排水路の清掃参加（職員）
- 9月 誕生日会
- 10月 誕生日会
- 12月 誕生日会（還暦祝い）

### 2021年

- 2月 誕生日会 ケーキ エビフライ
- 3月 地域 排水路の清掃参加（職員）

## 令和2年度事業報告

### 短期入所事業所（ショートステイ） ほたる

開所日 月、火、木、金の夕方から翌朝

※祝日はお休み

※ポップコーン（日中活動施設）の開所日に合わせて変更有

#### 受入実績

※利用登録者 23名（令和3年3月31日現在）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用者数	15	20	18	29	30	29	22	17	16	15	18	16	245
開所日数	17	15	18	16	15	15	18	15	16	16	14	18	193

利用者数は、のべ人数

#### 大切にしたこと

- ・安心して過ごしていただけるように、仲間一人ひとりの生活の流れや職員の関わり方に注意を払いました。
- ・日ごろから保護者との連絡を密にし、必要なときに話し合いをもちました。
- ・家庭の緊急時は受け入れに努めました。

#### 具体的な支援内容

- (1) 食事・排泄・入浴等日常生活の介助
  - ・利用者の安全・安心を第一にして介助しました。
  - ・てんかん発作をもっている利用者には、発作時の転倒による怪我などの未然防止に細心の注意を払いました。
- (2) 趣味やお楽しみの時間の提供
  - ・ゆったりした時間の中でくつろげるよう、テレビやDVDやパソコンを用いました。
- (3) 日常的な相談や話し相手
- (4) 食事の提供
  - ・健康に気を配った献立、心をこめて調理しました。
  - ・その日の献立を仲間が見やすいように掲示しました。
- (5) 健康管理・金銭管理の手助け
  - ・気候に合わせた室温、衣服、寝具を心がけました。入浴方法も気候に合わせて調整しました。
  - ・服薬、与薬管理を徹底しました。
- (7) 夜間における安全確認や身体介助、排せつ介助
- (8) 緊急時の対応
- (9) 日中活動の場等との連絡・調整
  - ・仲間の状態等の情報を書類やFAXでポップコーン（日中活動施設）と毎日共有しました。
- (10) 衛生面の管理
  - ・行政からの通知を参考にしながら、新型コロナウイルスの感染対策を行いました。
  - ・助成金を活用し、新たに空気清浄機、加湿器などを導入しました。

## 一日の流れ

夕方	16時	帰所・入浴
	18時15分	夕食
	19時	自由
	21時30分	リビング消灯
	23時	個室消灯

翌朝	6時15分	起床
	7時	朝食
	8時	出発準備
	9時15分	出発

## 令和2年度活動報告

### 特定相談支援事業所 ステップ

#### ・活動報告

障害者ご本人やご家族の願いの寄り添い、その人らしく地域生活が送れるサービスを提案しつつサービス等利用計画を作成しています。具体的な支援については、関係機関・関係者と情報を共有しながら、ご本人の意向に沿っているか？を確認しながら進めています。また担当者会議を開催し問題解決にあたるケースも本来ならばあったのですが、コロナ禍のなか開催することは控えました。

モニタリングもご自宅や事業所を訪問して直接お聞きし報告書を作成すべきところコロナ禍のため電話での聞き取りとなってしまいました。とても残念でした。

発達障害、精神障害の方への対処については、とても難しくまだまだ勉強しなくてはと思っています。

#### ・扱い件数

##### 障害者特定相談支援事業

サービス等利用計画案作成	54件
モニタリング報告書作成	135件

##### 障害児特定相談支援事業

サービス等利用計画案作成	1件
モニタリング報告書作成	4件

扱い件数についてはほぼ昨年と同じです。